



總連書記長  
樋口 和司

日本私鉄労働組合総連合会（私鉄総連）は、鉄道、バス、ハイヤー・タクシー、その他様々な関連事業の職場で働く仲間で組織する産業別労働組合です。1947年に結成され、2025年8月現在、北は北海道から南は九

生活と雇用、労働条件の維持・改善と、平和な社会を築く運動を一貫して進めてきました。組合員の求める課題を現実にするために、一組合だけの運動にとどまつては難しいとの思いから、力を合わせ、多くの課題を克んで、多くの問題を解決していくことを主眼において、用の安定確保、所得水準の向上、時短などの運動を展開されていました。だから、私鉄総連は、1990年に、全労生へ参加することを確認し現在に至ります。

近年、コンプライアンス遵守などが謳われ、多くの課題を克んで、多くの問題を解決していくことを主眼において、用の安定確保、所得水準の向上、時短などの運動を展開されていました。だから、私鉄総連は、1990年に、全労生へ参加することを確認し現在に至ります。

かねない大きな問題として、正常な労使関係の構築」「不当処分の撤回・和解」を第一主義に、当該単組と組合員を、全国の仲間とともに支え、裁判闘争支援に取り組みました。主企業、そしてそこで労働行行為第7条4項が言い渡も、何一つ良いことはありません。私たちも公共交通を守る取り組みを、労使一体となり組合員であります。ひとたび労使紛争が発生すると、利用者、株主に影響を及ぼしています。私たちも公共交通を守る取り組みを、労使一体となり組合員であります。ひとたび労使紛争が発生すると、利用者、株主に影響を及ぼします。

# 公共交通を守るために

州・沖縄まで全国24服してきました。

る社会において、生産

いこと、労働協約を遵  
までに回答を引き出す

3組合、約10万人の組合員が加盟していま

全国労働組合生産性会議（全労生）は、生性運動のひとつである「労使の協力と協議」

守ることが確約されました。

す。また、全国に九つの地方連合会と、直加

産性運動三原則①雇用の維持・拡大、②労使は、重要な意味をなしています。これまでの

公共交通は現在、鉄道、バスを問わず要員の問題へと、運動を展開する。秋闇（労働条件闘争）の解決へと、運動を展開する。

盟のハイヤー・タクシ  
ー、沖縄で組織し、専

の協力と協議、③成果歴史をみても、数々の  
の公正な分配を柱とす労使紛争がありました

不足により、やむを得ない減便や路線廃止に開して います。誰もが安心できる平和な社会

従役員を配置できない  
中小組合の運動をサポ

る生産性運動の展開が、現代においても、  
と「生活の質の向上で 労働協約無視や不当労

至っています。また、物価高騰による燃料費で、「生活の質の向上でゆとりある社会づくり」

ートしています。結成されてから、今日まで

ゆとりある社会づくりを進める」結成30年宣 働行為が発生し、全国の労働者に影響を与えた

や安全設備投資の増加により、公共交通の維持を進める」ことが重要と考  
えます。